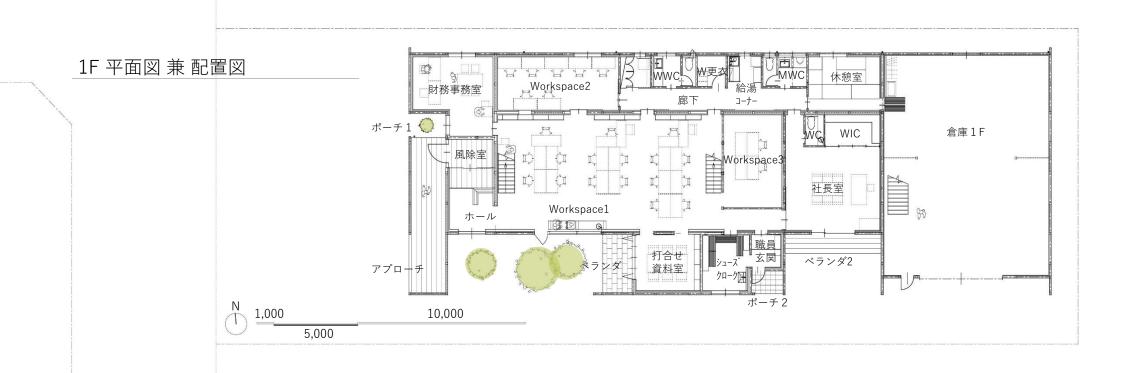
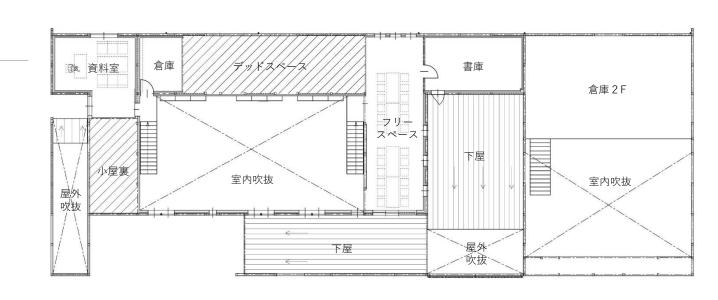
この建物は町の特徴的な東の山並みと、田園が広がり始める風景への調和の為に低く抑えたデザインに**黄金比(1**: $\frac{1+\sqrt{5}}{2}$)を採用し、街並みのイメージを向上させるランドマークとして景観に溶け込ませている。 建物の名前はW×W×W。3つのW=テーマ(空間の二重構造、ダブル観葉リング、伸び縮みする高さ)を持ち、町へのつながりを程よくコントロールした事務所建築。正面の外観は窓を排除し、マテリアルのボリュームだけがそこにあるような**静的なデザイン**とした。

2F 平面図





W 1 空間の二重構造

中間領域が凸凹に表情を付けながら、内外を穏やかにつなげる。

- ・空間の奥行:外の外から内の内への間に、外なのに内的な空間と内なのに外的な空間を配置。環境の異なる四つの空間をつなげていくことで、空間ティストのシークエンスによる距離感を演出している。
- ・表情豊かな外観: 建物沿いに周りを移動していくと、外の外と外の内の連続が、シンプルな外観に場面ごとの表情を展開させている。



- □ 内の内
- 内の外
- 外の内
- 外の外

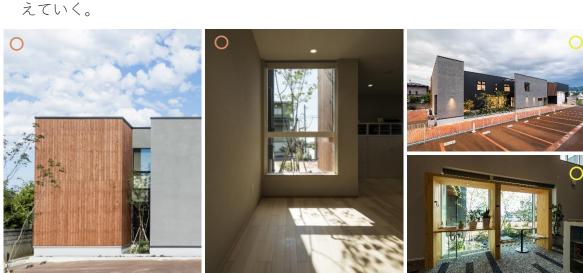
9,09 9,09 9,09

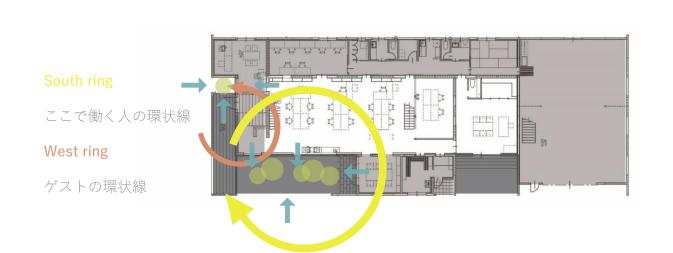
W 2 ダブル観葉リング 視線の重ね合わせ

二つの観葉環状線

・植栽を様々な場所から眺めることができるリング状の動線:ダブルスキンを2カ所だけ取り払い、代わりに落葉樹を植える事とした。このデザインにより、植栽が持つ癒しの効果が影となって、外から内に取り込まれてくる。外部から室内へ円弧を描くように移動する動線によって、同じ植栽でも見る角度が変わり、様々な表情を見せてくれる。この円弧は観葉環状線となり、植栽の効果を最大限に取り入れてくれている。

・壁の割れ目にしつらえた植栽帯:この配置は外からの視線+強い日差しから、内の内を守るバリアとなる。壁の物理的な「遮断」に対して、植栽は窓外の景色のフィルターとなり、私たちを癒す力で守ってくれている。その力は内から外へ見る景色に揺らぎを添えて、穏やかに町へとつなげていく。二重構造の観葉環状線が、外から内へ揺らぎを取り込み、内から外への景観に、揺らぎを添えていく。

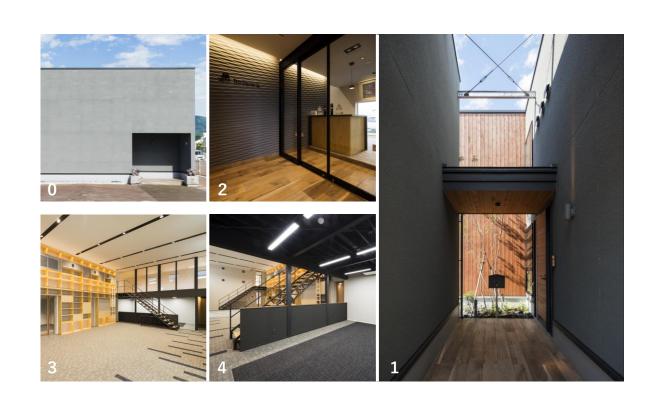


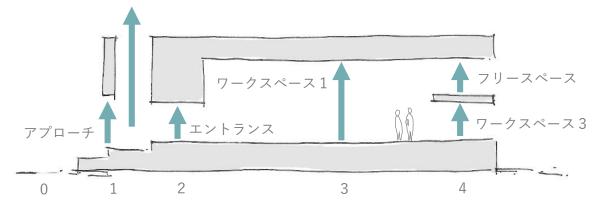


W 3 伸び縮みする高さ

移動しながら繰り返す解放と圧縮の二つのボリューム。

- ・中と外をつなぐ移動空間に、天井の解放と圧縮を繰り返す二層空間。高さ 方向の強弱が、シェルターの内の内へ入っていく体験を、物理的な移動+奥 へ囲まれていく安心として感じさせてくれている。
- ・吹き抜けたワークスペースの両端に2階を分けることで、配置した2つの階段が空間の広がりを演出している。施主からリクエストがあった吹抜に対しては気積を抑え、日中の滞在人員に対して空調面で非経済的になることを避けるとともに、視線の抜けが有る開放的な空間にとしている。





ここは私たちの生活を電気工事で支える会社の社屋、ベース基地である。

外で働いて帰ると、ダブルスキンで囲った安心感でホッと一息つけ、疲れを癒す解放性もあるシェルターを目指した。 それには単に囲うだけではなく、緩やかに町に繋がっていく為の3つの機能が必要だった。 そこから生まれる安心と開放感の二つの要素が、内部空間を豊かにしている。













